

今、「個人向け国債」が大人気！

政策金利が段階的に引上げられてから、国債の利回りも上昇、長期金利の指標である「10年物長期国債の利回り」が年利3%まで上昇しております。ゼロ金利、マイナス金利政策の時期に長期金利はマイナスから0.4%など、ほぼ金利が付かない金融商品でした。

ここに来て、個人向け国債がたくさん売れているようです。銀行などの預金金利は0.5%とか0.8%で、どこの銀行も似たりよったりの店頭金利です。これには理由がありまして、まず最初に大手都市銀行が預金金利を発表し、それをみて地方銀行や協同組織金融機関が預金金利を決めるので、どこの金融機関も同じような預金金利になるわけです。

それにしても、銀行などの預金金利は低すぎると思います。

貸出金になると、現在の長期プライムレート3.4%、短期プライムレート2.375～2.875%（都市銀行、地方銀行で差）で、プライムレートとは最優遇金利のことで、信用リスクの低い大企業に適用される一番安い貸出金利のことです。これからみると、預金金利は低すぎると思います。

さて、個人向け国債の10月募集分の金利は「かなり魅力的」で「堅実」な金融商品です。

- ①変動10年 2.05% 税引後 1.634%・・・半年ごとに金利が見直し
- ②固定 5年 2.39% 税引後 1.904%・・・満期まで金利が変わらない
- ③固定 3年 2.07% 税引後 1.649%・・・満期まで金利が変わらない

この中で一番の人气が固定5年ものです。9月募集債は1兆円以上売れて、5割以上の方が固定5年物を選択しております。金融機関の預金金利の3～4倍程の金利が付くようです。

個人向け国債は、価格変動リスクはなく、発行後1年を経過すれば中途換金ができますが、直近2回分の利子相当額が引かれるので注意が必要です。また、金利情勢により発行の都度、金利は変わります。長期金利が上がれば、個人向け国債の金利も上がることになります。

また、価格変動リスクはありますが、長期国債10年物も個人が買うこともできます。途中、長期金利が上がれば評価損を抱えることにはなりますが、満期まで持てば投資元本はほぼ償還されます（購入単価により若干の償還損が発生することがありますが、それと受取利息を含めて実勢の「利回り」で取引されます）。日本国債は、国内で一番信用力の高い金融商品で、信用リスク（デフォルト＝債務不履行となるリスク）に不安はありません。

詳しくはお近くの取扱い金融機関にご相談してみてください。個人的にこれは大変、堅実かつ有利な商品だと思います。ただし、自分はプロではございませんので投資の判断はご自分でお願いします。

令和8年10月7日 士別軌道 社長 井口 裕史 68歳